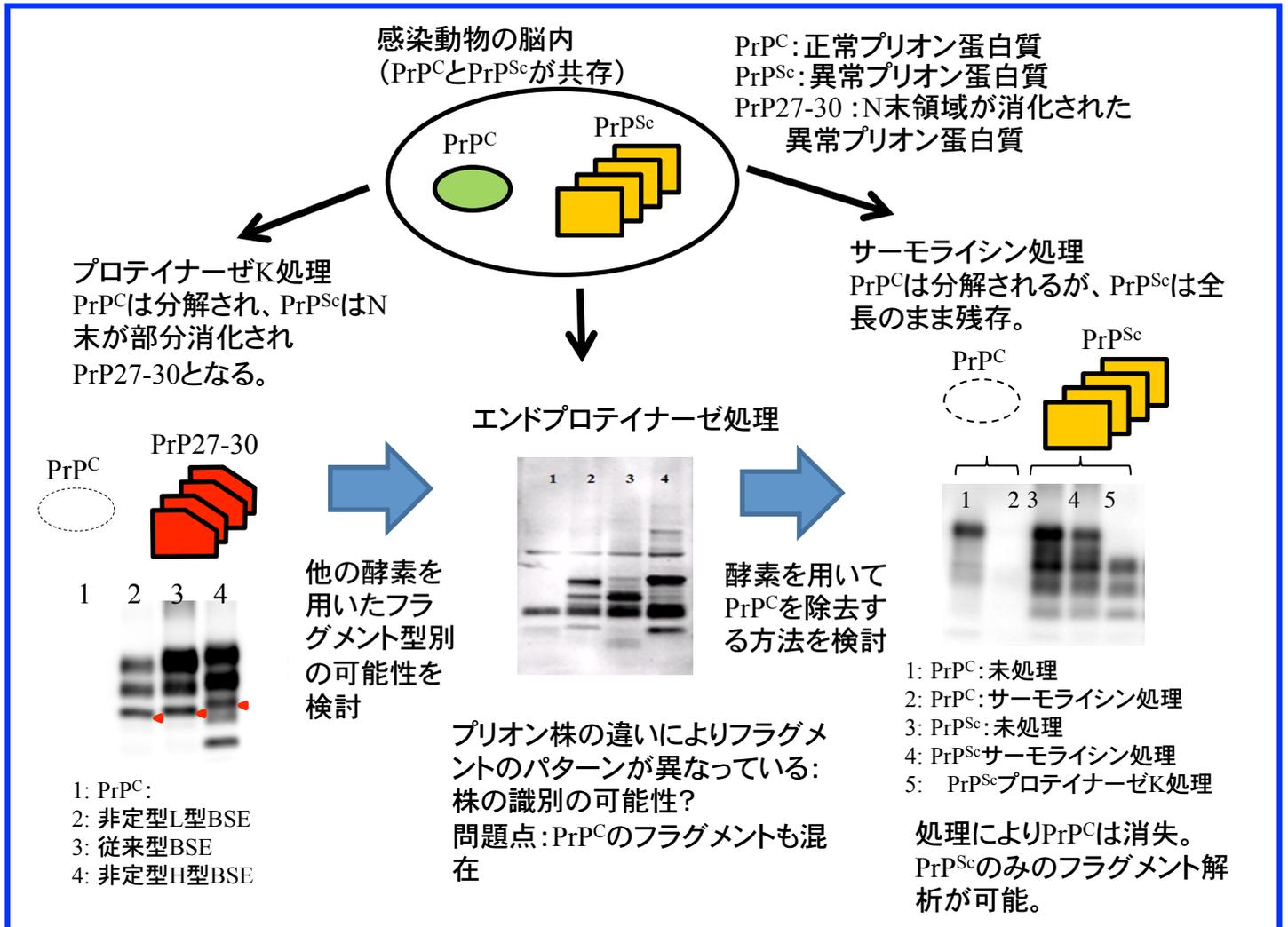


異常プリオン蛋白質の性状解析に関する研究

研究分担者: 動物衛生研究所プリオン病研究センター 横山 隆



解説

- 一部のプリオン株はプロテイナーゼK消化によるフラグメントの違いによる識別が可能である(左)。
- しかし、多くのプリオン株は同じ大きさのフラグメント(PrP27-30)となるため、他の酵素を用いた型別の可能性を検討した。
- エンドプロテイナーゼ処理による新たな識別の可能性が示唆されたが、このバンドにはPrPCのフラグメントも混在する(中)。
- サモライシン処理によりPrPCが分解され、PrPScのみの型別が可能となった(右)。